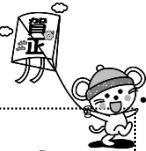


令和元年度

# 1月給食だより

練馬区立旭丘小学校

あけましておめでとうございます。本年も給食室一同、安全でおいしく、子供たちの心が明るく楽しくなるような給食作りを目指してがんばります。どうぞよろしくお願ひいたします。



1月の給食目標は、「マナーを守って食事をしよう」です。



## マナー違反に要注意!

次のようなことをしている人はいませんか？  
自分やまわりの人とチェックしてみましょう。

<p>口に食べ物が入ったままおしゃべりする</p>	<p>がちゃがちゃと食器の音を立てる</p>	<p>ひじをついて食べる</p>
<p>まわりの人とふざける</p>	<p>食事中に席を立つ</p>	<p>食事中にふざわしくない話をする</p>

1年の節目を迎えるこの時期は、伝統的な食文化にふれる機会がたくさんあります。給食でも、7日の七草（人日の節句）にちなんだ「七草うどん」、11日の鏡開きにちなんだ「白玉汁」、15日の小正月にちなんだ「小豆ご飯」を作ります。さまざまな行事食を通して、子供たちに、「食べること」を伝えていきます。



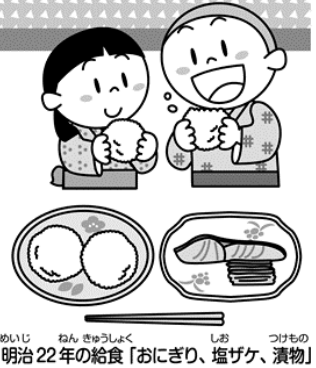
### 給食の食材の主な産地(11月)

・北海道 (玉葱、にんじん、大根、じゃが芋)		
・青森県 (にんにく、ごぼう、りんご)	・埼玉県 (ねぎ)	・和歌山県 (柿)
・岩手県 (鶏肉、きび)	・千葉県 (にんじん)	・愛媛県 (たけのこ、レモン、里芋)
・茨城県 (豚肉、もやし、ピーマン、蓮根、さつまいも)	・神奈川県 (ほうれん草)	・高知県 (しょうが)
・栃木県 (にら、もやし、ほうれん草、卵)	・長野県 (セロリ、エリンギ、しめじ、白菜、えのき、しめじ)	・福岡県 (葉ねぎ)
・群馬県 (きゅうり)	・兵庫県 (マッシュルーム)	・長崎県 (さやいげん)
・東京都 (チゲン菜、キャベツ、小松菜、白菜、大根、もみ菜、かぶ、にんにく、ゆず)		

# 学校給食の歴史と献立の 移り変わり



日本の学校給食の歴史は、明治22(1889)年に山形県にある小学校で、貧しい子どもたちへ昼食を無料で提供したのが始まりとされています。その後、各地で給食が実施されるようになりますが、戦争などの影響で中断されてしまいました。そして戦後、支援物資による給食再開を記念して設けられたのが、1月24日～30日の「全国学校給食週間」です。再開された給食が、どのような歴史をたどってきたのかを見てみましょう。



明治22年の給食「おにぎり、塩ガケ、漬物」

昭和22年  
(1947年)

## 給食が再開される

昭和21年12月24日、東京都内の小学校でアメリカのLARA(アジア救済公認団体)より給食用物資の贈呈式が行われ、昭和22年1月から全国約300万人の児童に対して、脱脂粉乳や缶詰などをを用いた給食が始まりました。

★当時の給食「ミルク、トマトシチュー」

昭和25年  
(1950年)

## パン・ミルク・おかずの「完全給食」に

アメリカから寄贈された小麦粉を使い、パン・ミルク・おかずがそろった給食が実施されるようになりました。

★当時の給食「コッペパン、ミルク、カレーシチュー」

昭和38年  
(1963年)

## ソフトめんが登場、 脱脂粉乳から牛乳へ

ソフトめんが学校給食に採用され、メニューの幅が広がりました。また、昭和39～43年にかけて、脱脂粉乳から牛乳へと切り替わりました。

★当時の給食「ソフトめんミートソース、牛乳、フライポテト、桃缶」

昭和51年  
(1976年)

## 米飯給食が正式に始まる

パンが中心の給食から、少しずつ米飯給食が増えていきました。当初はご飯を炊くための設備が整わず、月に数回程度の実施でしたが、米飯給食は子どもたちに大好評でした。

★当時の給食「カレーライス、牛乳、塩もみ、ゆで卵」

